

「ひまわり」よりも「たんぽぽ」が好き！

以前にもこう語った。努力を測る器械なんてありゃしない。仮に努力を測る器械が存在するなら、人類は今よりも幸せになっていただろう、と。

人間は平等でない。生まれた時点でスタートラインは違っている。経済的に恵まれた家庭に生まれ育った人間もいればそうでない人間もいる。生まれながらに頭脳明晰、容姿端麗の人間もいれば、自分自身そう思えない人間だっている。生まれながらの自分を取り巻く『環境』や、持って生まれた様々な『資質』や『能力』には差があるのは当然だ。その差は、自ずとその後の人生や道のりにも少なからず影響をもたらす場合が大だ。

若い自分は、私だって、(ああ俺もキムタクのようにかっこよく生まれてきたら、きっと女子生徒のあこがれの的だったろうなあ。少なくとも、廊下を通るとみんなよけて通るような、こんなみじめな思いはしないはずだ。いや待て、キムタクのようだったら、そもそも学校の先生なんてやってやしない。でも、工藤静香はタイプじゃない。もっと好みの女優さんと結婚して……)なんて夢想したのが、退職が見えてきたこの年になって何と虚しいことか。

ただ、スタートラインは違っても、走り始めてからのスピードやスタミナは、その人間の努力次第だ。そして、その努力が正当に評価されることこそが大切だと思う。

学習評価の観点別評価3観点に、「主体的に学習に取り組む態度」という項目がある。この評価は、以前までだと、誠実に学習に励んでいる、発言や発表が活発だったり提出物がしっかりしている、つまりまじめに一生懸命授業や課題に取り組む態度が表れていれば、それなりに高い評価をもらえたものだ。だが、今は単純にそうではない。

例えば、漢字や英単語を覚えようと何度も何度もノートに繰り返し書く。バレーボールの技術を磨きたくて、何球も何球も球出しをしてもらってレシーブ力を磨く。涙ぐましい努力だ。しかし、もし間違えた漢字や英単語を書いていたとしたら、もし間違った方法でレシーブしていたとしたら。自分がやってきたことは大いなる時間の浪費であるばかりか、間違った知識や方法を身に付けるだけで、逆に何の役にも立たないマイナスの努力だ。結果はどうであれ一生懸命頑張ることだけを美德だととらえてはならないのだ。

このように、これまでなら、汗をかいた分の「粘り強さ」や「ひたむきさ」がそれなりに評価されたかもしれない。しかし、新学習指導要領の学習評価では、高い評価にはならない。それは「自己調整力」が欠如しているからだ。

自分の学びを振り返り、自己評価を繰り返し、間違ったやり方を是正したり改善したりすることや、自分の学習の状況を把握し、自分の学習を調整する力こそ、今子どもたちに求められている。

しかし一方で、学習面での努力には「自己調整力」が必要だとしても、一般生活では、ともかく額に汗して誠実に頑張る人間が報われる社会であってほしいと切に願う。それは学校でもかくあるべしだと思う。

とかく世の中は、イメージ第一主義、中身より見た目勝負、ビジュアルが優れている方が有利、的などところが多い。学校でもそうだ。ふだんはでたらめな言動をしても、ちょっとかっこよかったり、スポーツマンだったり、おもしろいことを言ったり、リーダーシップがあったりしてクラスの人気者だったりする子もいる。一方、おとなしくて無口だったり、ちょっと人とは違った発想や行動をとると、敬遠されてしまうような子もいる。そんなことが、いじめや嫌がらせにつながるものがあってはならないのも、また当然だ。

私が若い頃に担任をしたクラスに、クラスで一番無口でおとなしくて、一言で言えばいわば地味な存在だった、B子がいた。

ある日のこと、学年主任の先生からこう言われた。「先生のクラスの教室は、机と椅子がいつも整っていてきれいな教室だね。実に気持ちがいい。たいしたもんだ。」と褒められた。

理由は明白だった。部活動を終えて競技道具をしまいに来る途中に、B子が、だれもない放課後の教室に寄って、毎日、机と椅子を縦横きっちり揃えたり、床に落ちているプリントを拾っては片付けていてくれたのだ。たいした時間ではない。時間にすれば2,3分のことだ。でも一日も欠かさずだ。彼女は、クラスや学校で決して親しくする友人が多いとは言えない子だったが、私はそんな彼女を心から尊敬していた。

学校は勉強が本分だが、学校行事、清掃や係活動、委員会活動、奉仕活動に熱心に取り組む子どもが私は大好きだ。初めから兼ね備えた能力や生まれ育ちに関係なく、その人の心持ち一つで誰でも平等に取り組めることがある。みんなのため、公のために役に立つ仕事や役割がある。そんなことに、人知れず黙々と取り組める子は本当にすばらしい。クラスや学校を本当に陰で支えてくれているのは、こんな子どもたちなのだろうと。

その年の終業日の最後の終学活に、B子に、『ダンディライオン賞』と名付けた大きな賞状を用意し、クラス全員の前で表彰した。『dandelion』。道端の目立たない場所でもしっかり根を張ってたくましく野に咲く『たんぽぽ』のように、人知れずクラスを支えてくれたB子にふさわしい冠名だと考えた。「賞状もらったの生まれて初めてです。」そのうれしそうな顔が忘れられない。

ある日、クラスでこんなことを子どもに尋ねたことがある。

「このクラスの担任が俺じゃなくて、キムタクだったらどうだ？」生徒はシラツとしながら、「あり得ない。」「毎日一番に学校に来る。」「サインもらって売りさばく。」などと勝手なことを言った。しかし、「俺は、キムタクなんかより先生の方が何倍もかっこいいと思います。」(さすがクラス1のムードメーカーのT男よ。よくぞ言ってくれた。お前だけはわかってくれる。)
「先生、明日の学活、学級レクでドッジボールにしませんか?」「……………」